

2022 4/26・2022 5/10合併号

No.2161・2162

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



横浜市中区の山下公園で、市内の造園業者などが意匠を凝らした「花壇展」が始まった。5月5日までの予定で多様な21区画の花壇が並ぶ。



contents

視点点描	3
横浜にぎわい座20年	
国際	4
緊急ルポ「ウクライナ侵略」 ロシア軍は「民間人を虐殺」 虐殺と空爆の街で見た現実	
経済	8
「はじめの一歩」ロシアへの経済制裁 『返り血』を浴びる可能性大 国債デフォルトの危険性	
経済	12
「誌上座談会」ロシア制裁と日本 「脱ロシア」の資源戦略検討を 権益と代替調達が焦点に	
デモクラシーの現場から	16
振り回され続けた復帰50年の沖縄	
政治双眼鏡	18
どうなる区割り見直し 問われる真剣度	
風人来人	19
「ファスト映画」と鑑賞文化の危うさ	
企業最前線	20
「空中ディスプレー」導入へ動き コロナ禍、非接触のニーズが後押し	
神奈川景気データファイル	22

事務局だより

◇2022年6月の定例講演会

6月16日（木）午前10時～

11時20分

ロイヤルホールヨコハマ4階

「エリゼの間」

講師：デジタル大臣 牧島

かれん氏

演題：「日本のデジタル政策について」

※定例講演会は、急な閣議などの公務や新型コロナの感染拡大の状況によって延期する場合があります。講演会後、当会の総会を準備しています。

【新規会員】(22年4月19日現在)

・株式会社三好商会 (22年4月)

・根本建設株式会社 (22年5月)

【お知らせ】神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を探載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 045 (226) 2121。

視 点 描 点



横浜にぎわい座20年

明治から大正にかけて、横浜・伊勢佐木町界隈には大衆芸能の芝居小屋が軒を連ねていた。そのぎわいと庶民の心意気の再生をうたつて横浜市が設置した全国でも数少ない大衆芸能の専門館「横浜にぎわい座」（横浜市中区野毛町）が4月、開館20年を迎えた。同館は構想から6年の歳月を掛けて2002年、桜木町駅に程近

い中税務署跡地にオーブン。話芸を柱に、ひと月の前半を自主公演、後半を貸し館とする独自の運営方法は、専門性と公共性のバランスを踏まえた成功例となつて定着。演者にも観客にも親しまれ、利用者の裾野を広げてきた。

構想段階から関わり初代館長に就任した玉置宏さんの口癖は「ハマに笑いのいい風を」だった。歌

謡番組を通じて「一週間のご無沙汰でした」の名文句をはやらせたことはいうまでもない。東京の寄席にはない番組や企画を自ら打ち出し、わが町の施設の魅力を都内に集まる愛好家に向けてアピール。落語協会と落語芸術協会の二派合同公演を実現させ、当時の関東では前例がなかった上方落語の会を定期開催するなど、魅力づくりに心血を注いだ。

2代目の桂歌丸館長は、にぎわい座のためならと東奔西走している姿が印象深い。ライプならではの感動を味わつてもらうことになり、テレビでは淘汰されてしまう多種多様な寄席芸に触れる機会を創出。落語と横浜をこよなく愛し、「にぎわい座は横浜の宝」とよく話していた。その人柄と生

き方そのものが、横浜の演芸を淘汰した」の名文句をはやらせたことはいうまでもない。東京の寄席にはない番組や企画を自ら打ち出し、わが町の施設の魅力を都内に集まる愛好家に向けてアピール。落語協会と落語芸術協会の二派合同公演を実現させ、当時の関東では前例がなかった上方落語の会を定期開催するなど、魅力づくりに心血を注いだ。

2代目の桂歌丸館長は、にぎわい座のためならと東奔西走している姿が印象深い。ライプならではの感動を味わつてもらうことになり、テレビでは淘汰されてしまう多種多様な寄席芸に触れる機会を創出。落語と横浜をこよなく愛し、「にぎわい座は横浜の宝」とよく話していた。その人柄と生

（神奈川新聞社文化部長・

高田 久美子）